

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

北日本ナチュラリスト同好会研修会
平成30年8月5日(日)



富山市ファミリーパーク
動物課 村井仁志

ライチョウについて

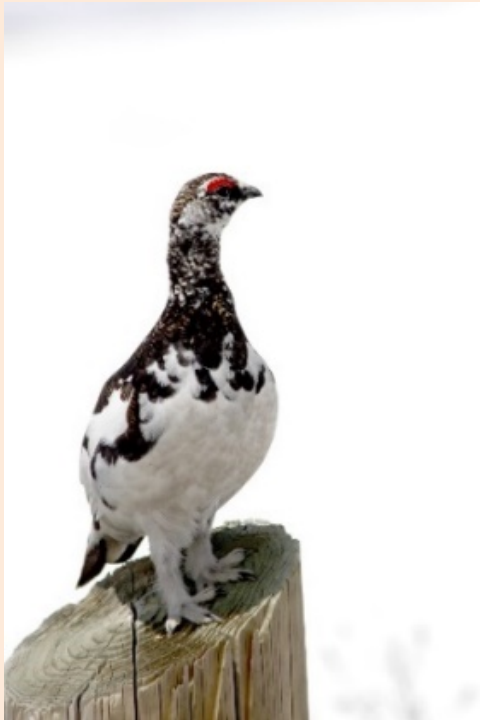
富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

分類；キジ目 ライチョウ科 ライチョウ属 ライチョウ

学名；*Lagopus muta japonicus*

Lagopus;「ウサギの足」という意味

muta;「無声の」または「変わる」という意味



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

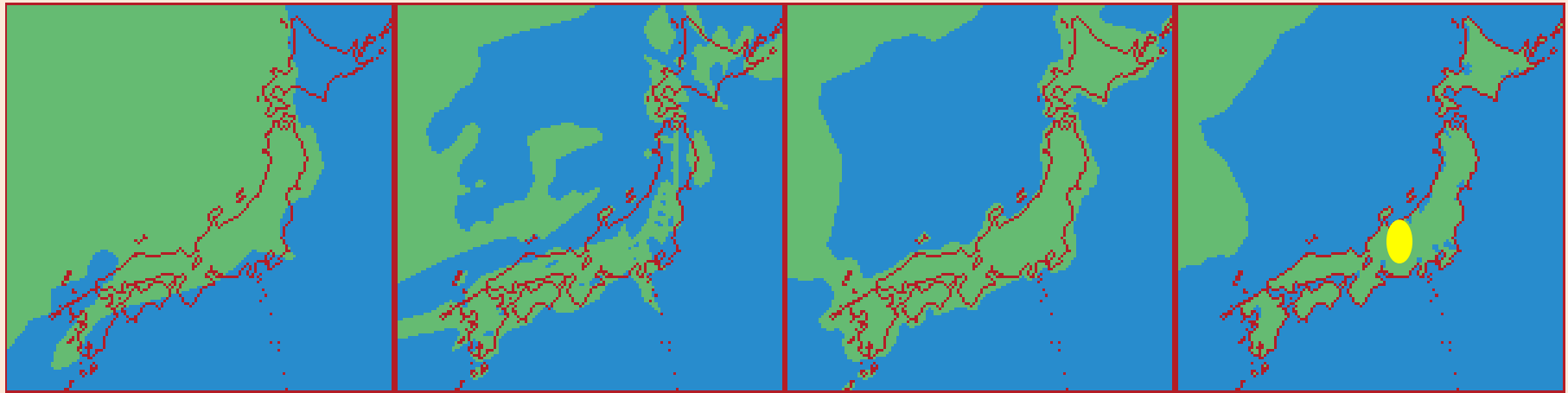
ライチョウの分布 北極圏に近いユーラシア大陸 日本は分布の南限



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

日本に分布するライチョウの起源；氷河期の生き残り

ニホンライチョウは、日本列島が大陸と陸続きであった最終氷期に大陸から移りすみ、その後温暖化とともに気温の低い高山に取り残されたと考えられています。



第三紀（漸新世）
約3600万年
～約2500万年前

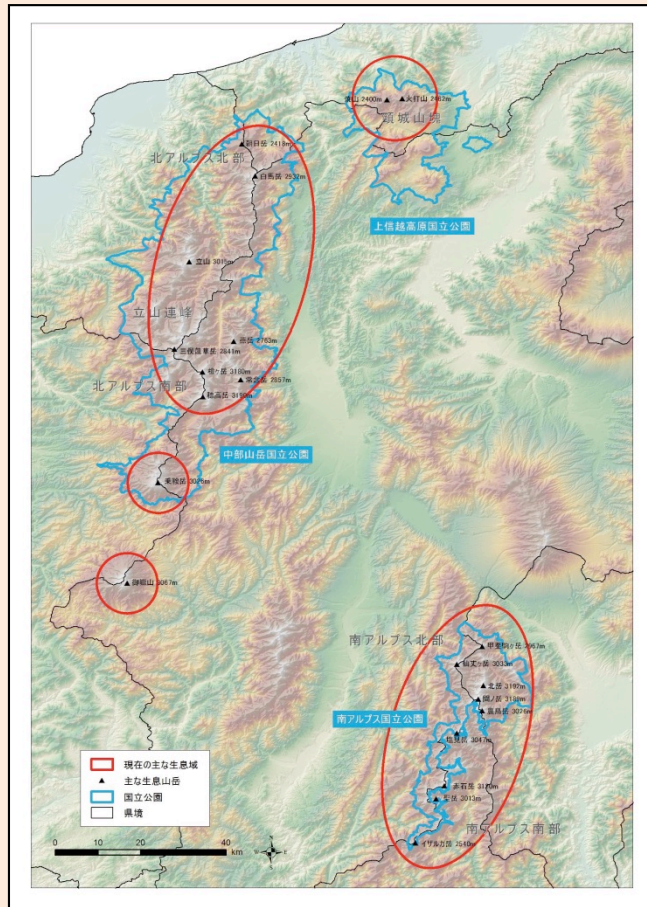
第三紀（鮮新世）
約500万年
～約170万年前

洪積世後期
約15万年～約1万年前

沖積世
約1万年前～

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

国内の生息地



山域名		主な山岳
頸城山塊		火打山、焼山
北アルプス		北部：立山連峰、後立山連峰 南部：槍・穂高連峰、常念山脈
	乗鞍岳	(独立峰)
御嶽山		(独立峰)
南アルプス		北部：甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、 b b b 白根三山、塩見岳等 南部：荒川岳、赤石岳、聖岳、 b b b イザルガ岳等

資料提供：環境省

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

生息環境 2000m以上の高山(寒冷・積雪)



室堂

ハイマツ帯



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

ライチョウ(オス・メス)

体長; 約360mm

体重; 約500～600g

矮鶏ぐらいの大きさ



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

食性 高山植物・昆虫



天敵; 猛禽類・オコジョ

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

繁殖生態

4月～5月;オスのなわばり形成&ペア形成



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

5月～6月；交尾・産卵・抱卵



産卵数；6～7卵

産卵間隔；1日おき

孵化の開始は全卵産み終わってから

孵化日数；22日～23日

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

6月～7月；孵化・育雛



成育する数；一腹で1～2羽

日本人とライチョウ

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

しら山の 松の木陰にかくろひて
やすらにすめるらいの鳥かな

1200(正治2)年歌集「夫木和歌抄」で後鳥羽院が岐阜県と石川県の県境にある白山のニホンライチョウを詠んだもの

国内で最初のニホンライチョウに関する記述

加賀藩(今の石川県と富山県)では、1648(慶安元)年には黒部に『奥山廻り』役を派遣して巡回させ、麓の村に立山一帯のニホンライチョウ、松、花、硫黄などの監視をさせたという記録が残っている。

1708(宝永5)年、京都の大火災で御所が焼けた際、後鳥羽院の和歌が書き添えられたニホンライチョウの絵をかかげてあった建物が焼失を免れた

➤ニホンライチョウを描いた御符が火災および雷除けとして出回る

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

「立山信仰」

白山、御嶽山、立山はニホンライチョウが生息する山

高山植物の咲き広がる一帯や峰々を阿弥陀如来が住む浄土として信仰登山の目標としていた「立山信仰」においても残雪の岩場に群生するハイマツの間のニホンライチョウは**火難除の守護神**にみたてられた。

山において神の使いとされていたニホンライチョウに危害を加えることは神罰を受けると考えられ、落ちていた羽はお守りとして尊重されていたようです。

明治期以降

近代化とともに庶民の生活や信仰が変化し、猟銃などの普及によって、ニホンライチョウの乱獲の兆し

1910(明治43)年に「狩猟法」で捕獲が禁止された

1923(大正12)年には、「史跡名勝天然記念物保存法」によって**天然記念物**に指定

1955(昭和30)年には「文化財保護法」により**特別天然記念物**に指定

ライチョウの現状

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

生息数

1980年代には3000羽 ➤ 2000年代には2000羽弱

調査方法

追い出し法; ナワバリを形成している繁殖期(抱卵初期から中期)において、調査区域ごとに稜線上から調査範囲の最下部までの間を調査員が5~7m間隔で横一列に並び、くまなく踏査し目視する方法

鳴き声(song)による確認法; 個体やフィールドサイン(生活の痕跡)の発見が難しかったり、調査できない場所では、夕方にナワバリ内の雄が見張り場からネヤ入りするのに飛び立つ時と、朝方にネヤ立ちしてナワバリ内に飛び降りる時に鳴く習性を利用した方法



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

減少の原因(推定)

1. 本来低山で生活している動物(キツネ、ハシブトガラスなど)の高山への分布拡大によるライチョウの捕食
2. 従来高山に生息していなかった動物(ニホンザル、ニホンジカ、イノシシなど)が高山へ侵入し、高山植物を採食することによるライチョウの生息環境の減少
3. 温暖化などの気候変動によるライチョウ生息環境の縮小
4. 高山への病原菌の侵入によるライチョウの疾病拡大
5. 人間の侵入によるライチョウの生息環境の攪乱

2012年公表の第4次環境省レッドリスト

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ⇒ I B類 (EN)

特に北アルプス南部の一部、南アルプス北部の白根三山一帯での減少が著しい

環境省(国)の保護策

平成24年10月;ライチョウ保護増殖事業計画

平成26年10月;第一期ライチョウ保護増殖事業実施計画

平成26年11月;ライチョウ生息域外保全実施計画

ライチョウの保全

富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

ライチョウをまもるための計画

生息域外保全

動物園や保護センターなどの施設の中で、ライチョウを保護していくこと。

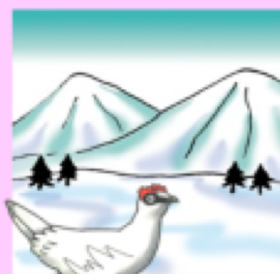


生息域内保全

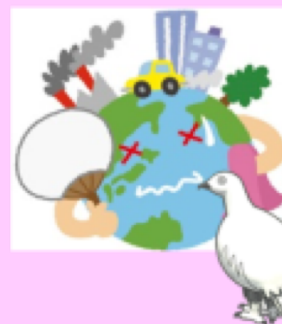
ライチョウが生活している自然の中で、ライチョウを保護していくこと。



野生復帰



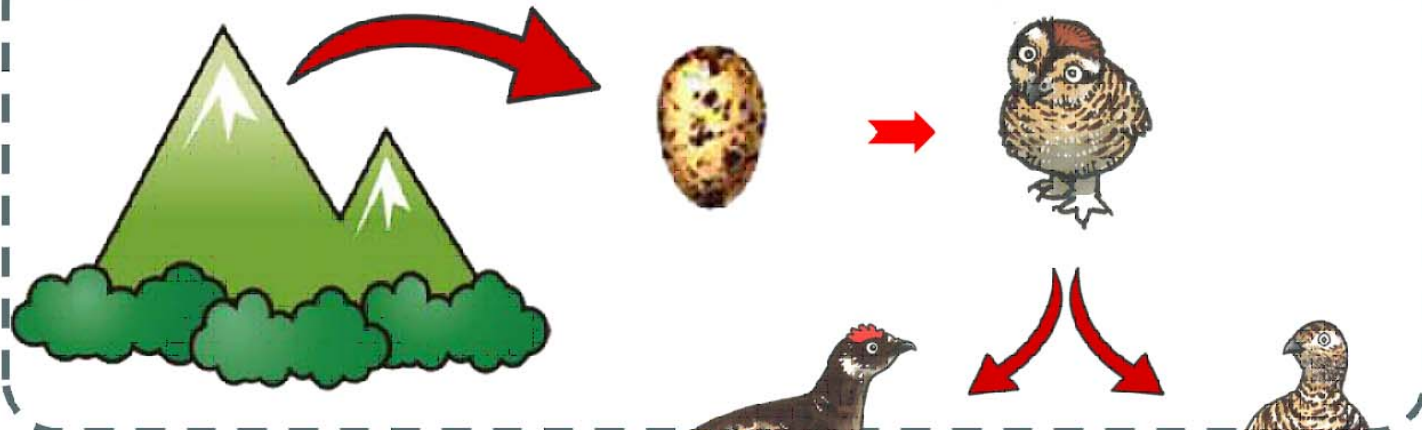
普及啓発



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

ファミリーパークの取り組み ～ライチョウ試験飼育の流れ～

平成27・28年度（1・2年目）は、人工孵化・育雛に取り組みました。



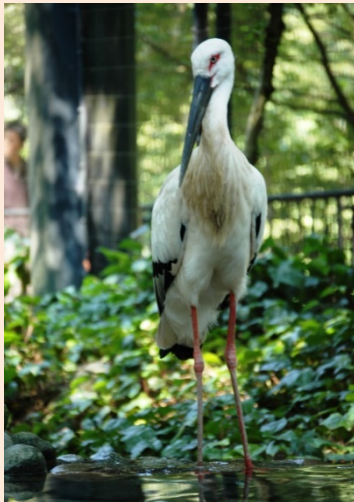
平成29年度（3年目）は、人工繁殖に取り組みました。



富山市ファミリーパークにおけるライチョウ保全の取り組み

動物園で生息域外保全に取り組む意義

- ・(公社)日本動物園水族館協会に加盟している園館で連携
※生物多様性推進に関する基本協定(環境省とJAZA)
- ・飼育の専門施設である
- ・複数の動物園で飼育することで危険分散が可能にある
- ・普及啓発の専門施設である



ニホンコウノトリ



トキ



ヤンバルクイナ



トゲネズミ類



ツシマヤマネコ